

令和3年度 第1回 MTDLP全国推進会議

MTDLP研修等の実施状況について 令和2年度実施「Web アンケートの結果」

令和3年10月21日
(19:10~19:25)

推進シート担当 紅野 勉

本日の内容

Covid-19の影響を受けたMTDLP研修等の実施状況について Webアンケートの結果 <回収47/47 (100.0%) >

令和2年4月に国が発出した緊急事態宣言に従い、不要不急の外出自粛をはじめとする感染対策の徹底などにより、国民の生活は一変した。

医療・介護の業界では一般社会以上に感染対策が求められ、様々な影響を受けることとなった。OT協会ならびに都道府県作業療法士会におけるMTDLP推進も例外ではなく、各都道府県士会が当初に開催予定していたMTDLPの研修についても、大きな影響があった。

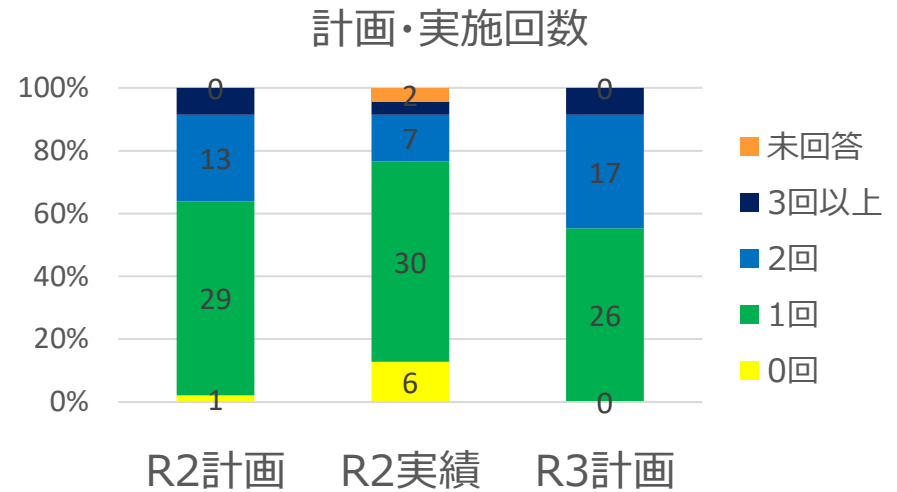
1、令和2年度の各種研修の実施状況と令和3年度計画について

- ①基礎研修
- ②MTDLP研修
- ③書き方研修
- ④その他の普及、推進活動
- ⑤推進のポイント
- ⑥改善すべき点、反省すべき点

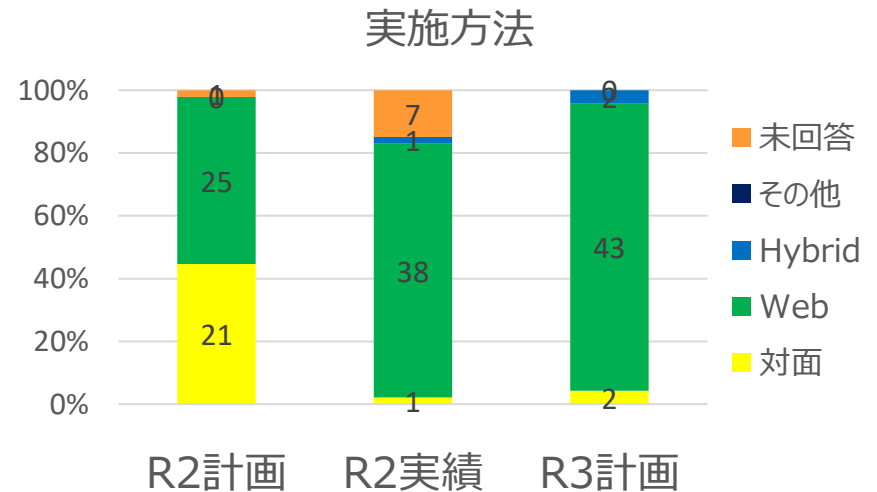
2、令和3年度に向けた戦略・目標について

アンケート結果 1 (基礎研修)

開催数	R2計画	R2実績	R3計画
0回	1	6	0
1回	29	30	26
2回	13	7	17
3回以上	4	2	4
未回答	0	2	0
合計	47	47	47

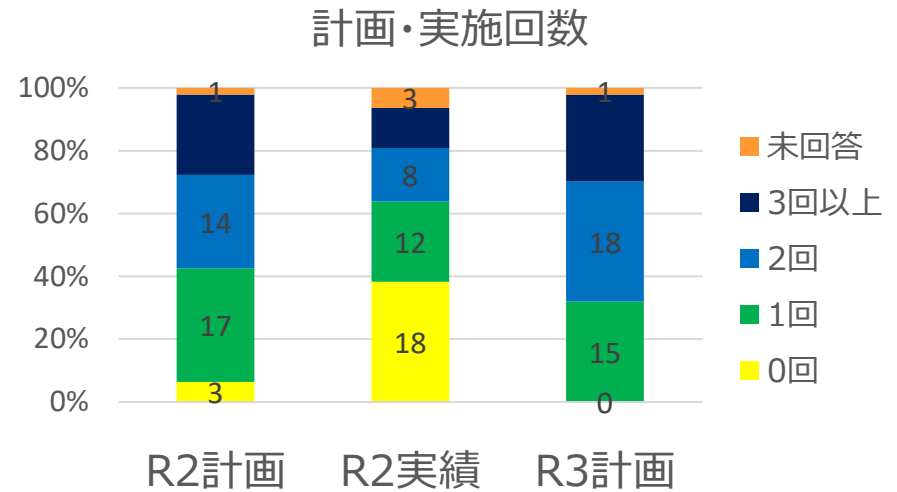


実施方法	R2計画	R2実績	R3計画
対面	21	1	2
Web	25	38	43
Hybrid	0	1	2
その他	0	0	0
未回答	1	7	0
合計	47	47	47

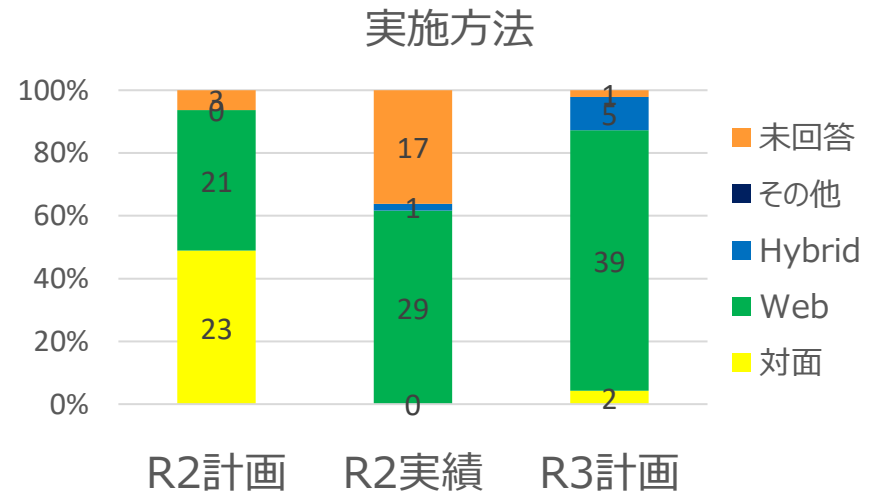


アンケート結果 2 (MTDLP研修 : 事例検討)

開催数	R2計画	R2実績	R3計画
0回	3	18	0
1回	17	12	15
2回	14	8	18
3回以上	12	6	13
未回答	1	3	1
合計	47	47	47

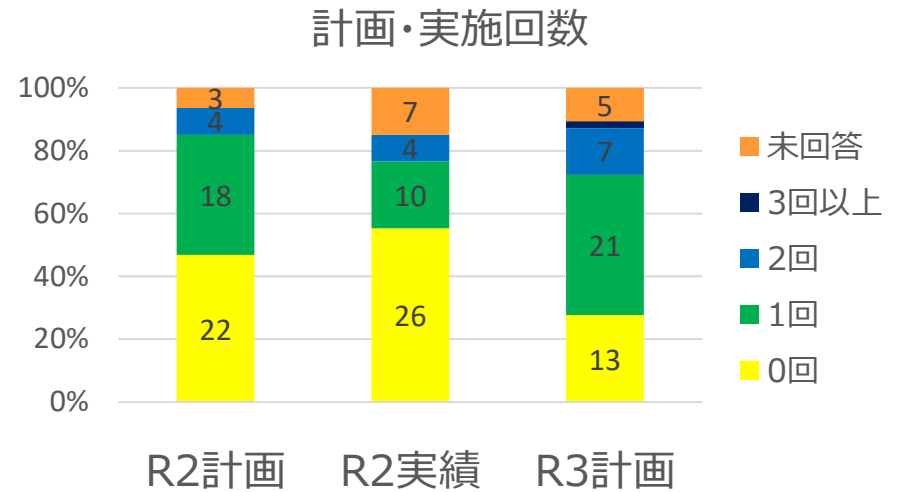


実施方法	R2計画	R2実績	R3計画
対面	23	0	2
Web	21	29	39
Hybrid	0	1	5
その他	0	0	0
未回答	3	17	1
合計	47	47	47

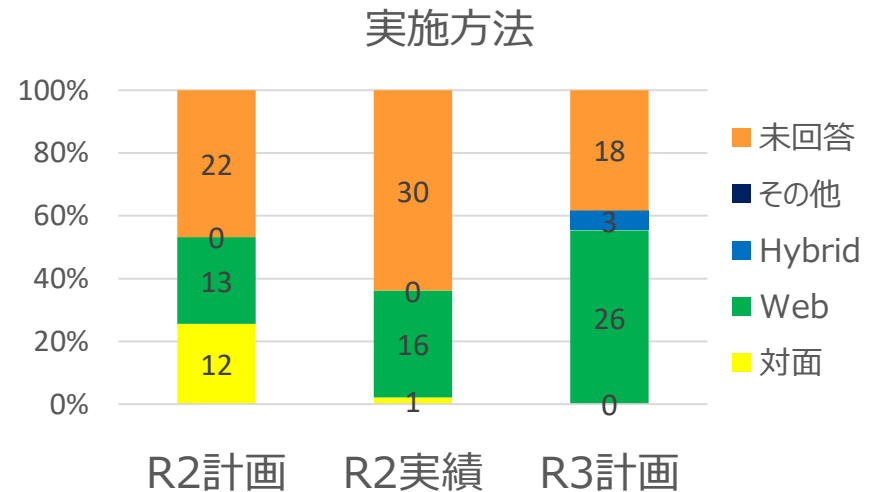


アンケート結果3（書き方研修等）

開催数	R2計画	R2実績	R3計画
0回	22	26	13
1回	18	10	21
2回	4	4	7
3回以上	0	0	1
未回答	3	7	5
合計	47	47	47

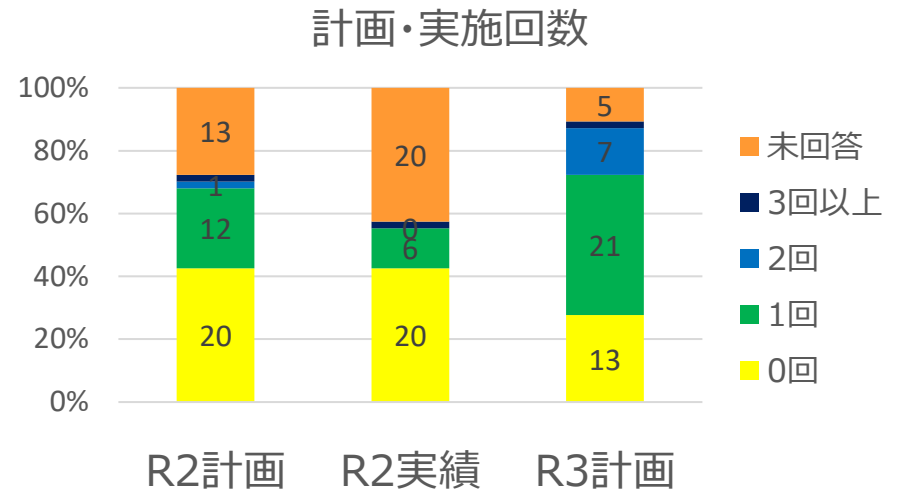


実施方法	R2計画	R2実績	R3計画
対面	12	1	0
Web	13	16	26
Hybrid	0	0	3
その他	0	0	0
未回答	22	30	18
合計	47	47	47

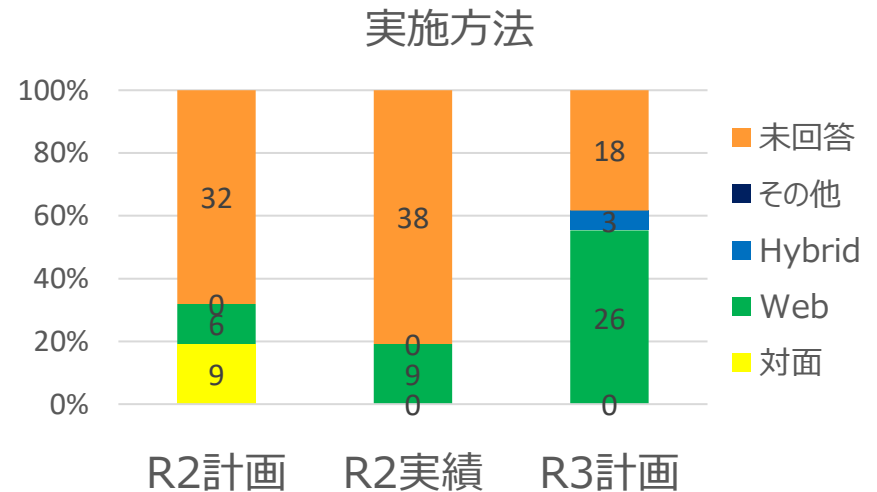


アンケート結果 4（その他の普及・啓発等）

開催数	R2計画	R2実績	R3計画
0回	20	20	13
1回	12	6	21
2回	1	0	7
3回以上	1	1	1
未回答	13	20	5
合計	47	47	



実施方法	R2計画	R2実績	R3計画
対面	9	0	0
Web	6	9	26
Hybrid	0	0	3
その他	0	0	0
未回答	32	38	18
合計	47	47	47



アンケート結果 5 (今年度有効だった推進のポイント)

- 県士会として早期からオンライン研修会のマニュアルを作成（開催者側と参加者側）したことで他県に比べてもスムーズに開催が出来ている。Zoomでの利点として支部をまたがっての参加が可能となっている。
 - ・ 上半期開催の事例検討会では、オンライン研修会前にオンラインでの開催に当たりオリエンテーションを行ったこと。
 - ・ 県士会として、Zoomのアカウントを取得したこと。
 - オンライン開催方法を士会連携室や他の県士会と情報共有出来、スムーズにオンライン開催出来た。オンライン開催で県内移動距離が遠く、普段参加出来ない参加者が参加出来た。
 - 特に無し(コロナ禍でもあり、十分な推進を行えていない)
 - Web開催なので移動が不要で参加しやすい環境であった
 - WEB開催のため、「自宅で参加できたことが良かった」との意見が多数であった。一方で、移動の手間が省けるので参加数を見込んでいたが、実数は多くはなかった。推測として、自宅の環境により参加が難しいケースがあると思われる。
- 全てオンラインで開催。参加者に対して事前練習を設けたことで当日はトラブルがほとんどなく進行できた。
- トラブル対応用にLIENのオープンチャットを利用した。使用端末にPCを推奨、有線での接続を推奨した。
 - web実践者研修はいつもより参加者が増えた
 - WEB研修会となり、県外の受講者が参加していた。精神科事例を使用し、反応も良かったです。
 - スプレッドシートを用いたWEBでのグループワークも比較的スムーズに運用できた。
 - webでの開催で、基礎研修を行えた
 - オンラインでの開催になり、県外からの参加が多数あった
フォローアップ研修会と題して、事例紹介や意見交換会を実施した。
 - Web基礎研修会の1週間前に事前説明会をWebで開催し、接続に問題があった会員には丁寧に対応して、当日のシート記入演習が円滑に行うことができた。
 - ・ まずは1回、Web研修会を開催することができた。
 - ・ 基礎研修会直後から受講者2名から問い合わせがあり、MTDLP評価～実践をメールのやり取りで助言ができた。

アンケート結果5（今年度有効だった推進のポイント）

- 当士会では研修会開催に伴う感染対策協議のため、上半期は全ての研修会が中止となった。下半期にwebでの研修会開催が決定してから、案内を早期に行えたため参加者の確保ができた。
- Webでの研修が実施できた。
- 地域支援事業への参画のための人材育成を目的として、地域生活支援とMTDLPに関する研修を実施した。本研修では、シートの書き方に終始せず、一つの生活行為の診かたおよびその整理の仕方とその介入の考え方、また、地域での生活の捉え方について講義を行った。受講者からは、地域支援事業に参画する際の思考の整理に有益であったとの感想が多数得られた。
- webで開催した為コロナの感染リスクを抑えて開催できた。
- 事前にZOOMのオリエンテーションを実施したことにより当日がスムーズにできました。
- 書き方研修会時に、実践事例を実践者に紹介・解説してもらった。
- zoomでの遠隔研修を初めて開催し、感染対策という観点では参加者は安心して参加できた。
- zoomを活用した研修に切り替えることが出来た
- MTDLP通信という広報誌を年2回発行
- いち早くオンラインを取り入れて基礎・実践者研修ともに3回ずつ開催できた。主婦層の参加が増えた。
- 今年度はオンライン開催となったが対面式で見込んでいた参加人数で運営できたことは良かったと思われる。
- 対面であれば中心地で開催しがちであるが、web研修であれば交通機関や交通費、駐車場代気にせず参加できる点は良かった。また、web研修であれば小さいお子さんがいる方等家を空けなくても参加できるというメリットがあった。
- webを取り入れたことで開催できた。
- 全てwebにて行ったため、子育て中の会員などの参加につながった。
- 対面研修が難しかったため、web(zoom)開催できるように取り入れたこと。
- ZOOMにより遠方の方が参加することができました。生涯教育制度の事例検討修了もアナウンスすることで数名参加者が増加しております。

アンケート結果 5 (今年度有効だった推進のポイント)

- ZOOMにより遠方の方が参加することができました。生涯教育制度の事例検討修了もアナウンスすることで数名参加者が増加しております。
- コロナ禍においてもZoomにより開催することができた
- 県土会のLINEで広報をすると参加者が集まりやすかった。
- 初めてのWEBでの研修会だったが、ZOOMだけでなく、GoogleDriveも活用してWEB上でもグループ学習ができたところ
- 基礎研修会、事例検討会ともに遠方の方も参加できた。
- 北海道は広域なので、Web開催で遠隔地の参加が増えた
- Web開催となり、部員、講師等がオンライン研修でのグループワークに慣れることができた。頭を突き合わせて同じシートを見ながらディスカッションはできなかったものの、画面の共有などを上手く活用しながら実施することができた。
- 基礎研修を運営する部と事例登録や他職種との合同研修を企画する部に分けて、それぞれ連携した事で幅広い推進活動ができた。
- ZOOM使用によりグループ討議も問題なくできた。

今年度有効だった推進のポイント（まとめ）

コメント数（38/47） 80.9%

①Web（オンライン、リモート、ZOOM）による開催

- ①感染拡大防止対策と研修会開催が両立できた
- ②対面では参加しにくい会員が増加した
 - 遠隔地の会員も参加しやすい
 - 子育て中の会員が参加しやすい
- ③オンラインツールの操作方法を習得できた
- ④事前にZOOMの使用説明（オリエンテーション）
- ⑤経費の節約につながった（主催者、参加者双方）
- ⑥メール等のツールの活用

②広報を充実させた

- ①SNS（LINE）を活用した広報や情報配信
- ②広報誌を年2回発行した

③他の部局との合同開催

- ①地域支援事業へのMTDLPの視点活用

アンケート結果 6 (改善すべき点、反省すべき点)

- 1) MTDLPが学校教育にも組み込まれ、組織的に運用がなされつつある中で、委員会を終結していく必要がある。 2) MTDLP事例検討会、MTDLP基礎研修の質と量の担保を図る必要がある。 3) 協会の動きと連動すること。 4) コロナ禍でZOOMでの開催が主となっており、会場開催ができていない。会場開催では、意見交換がしやすく、各支部での分野を問わず、顔の見える関係ができて連携しやすい。会場を持ち回りにすることにより、様々な施設での発表や参加を促すことが出来る利点が活用されない。 5) 事例検討会の発表者について各支部担当者や理事、部長が調整しているが、促すのが大変になっている。
- 研修会全体が下半期の開催となってしまい、事例の書き方研修を開催できなかったため、上半期での開催の検討と実践者研修につながるような方法の検討が必要。
- オンライン開催の手順をもっと丁寧に対応し、様々な年代の方が参加しやすい工夫が必要。
- コロナ禍でのweb開催に向けた円滑な準備が出来ず、基礎研修が行えなかった、事例検討会の開催が遅れた事。
- 実践者研修の発表希望者が0であった。
- web方法に慣れていなく準備等に時間がかかり開催できなかった
- 運営側がWEB開催に慣れていないため、進行に時間を要したため、運営側の習熟度を高める必要があった。
- オンライン開催の準備（運営スタッフのスキルアップ）に時間がかかり、実際の研修会は11月から開始となり、慌ただしかった。次年度は余裕をもった日時設定で開催したい。
- 実践者研修会への事例報告者の募集
- Zoomなど利用してのグループワーク対応を円滑にするための工夫が必要。キャリアメールアドレスでの応募もまだあり、資料のやり取りに支障をきたすこともある。
- 準備不足のため、web対応が出来なかった。
- ブレイクルームへの見回りの強化（質問しづらい印象）
- 実践者研修が行えなかった。来年度は、実施します。
- グループワークの進行・意見集約にファシリテーターのマンパワーが必要であり、大規模な人数でのWEB開催には制約がある
- 実践者研修の受講者の確保に難渋している。

アンケート結果 6 (改善すべき点、反省すべき点)

- web環境の整備が遅れ、研修開催が出来なかった。
- 事例検討会はwebで行う場合の、個人情報の問題が有り開催できなかった
- 実践者研修は、webでは画面共有などに時間がかかり、一事例45分では収まらなかった。時間の余裕を持って開催する事が必要
- 事例検討会への参加を促すため、書き方研修やその他普及啓発活動の実施が必要と考える。
- ZOOM使用時のトラブルの対策
- 初のWeb研修を開催することができたので、その経験をもとに来年度に数回の研修を開催したいと考えています。
- 基礎研修のみの開催であったため、事例検討会や書き方研修会など次年度開催をしたい。
- 実施回数が予定より少なくなってしまった。
- 参加対象を全会員としていたものの、地域支援事業に参画の経験がある・興味がある会員、生活期の作業療法に従事している会員に限られていた。
- zoomを使用できない方や、web研修会が苦手な方の参加を促すことが、次年度の改善点となる。
- ハイブリットでの環境設定
- 事例検討会の企画を地区ブロック毎に委ねていたため、地域差が年々拡大してきた。
- 初めてのオンライン研修ということもあり音声聞きづらいなどの反省点があった
- ZOOMの知識、運営方法の確立
- 玄人向けにならないように、書き方や活用の具体的方法の勉強会の必要性を改めて感じた。基礎研修、事例検討会の参加者が減少傾向。
- 毎年、広報が課題。県士会の他勉強会やホームページ、フェースブックなどSNS、LINE、広報誌以外の方法を教えていただきたい。
- 事例検討会を実施できなかったため運営側も含め経験できなかった。次年度は発表者、参加者の確保も含め取り組んでいきたい
- 運営側がweb研修に不慣れだったこともあり、PCでの参加に限定していたが、書記等の役割を持たないのであればiPadやスマホでの参加も可能かもしれない。
- 早めの研修案内

アンケート結果 6 (改善すべき点、反省すべき点)

- 画面越しでのディスカッションやグループワークに慣れていないため、意見が出にくかったり進めるのに時間がかかってしまった。研修会の準備に慣れておらず、時間がかかったため申込者への案内が遅くなってしまった。
- 今年度の事例発表は、web開催となったこともあり少ないと予想していた(1,2事例)が、それ以上の発表があった(8事例)ことには驚いている。しかし、事例検討会の聴講者の参加が少ないこと、実践者の参加が少ないためMTDLPの検討になりにくい。次年度、いかに実践者に参加してもらえるかを考えていきたい。
- 臨床実習指導者講習会時にMTDLPのアナウンスもしましたが、そこからの参加者はほぼ0であり、その場で事例検討会の申し込みができるような工夫をしても良かったと思いました。
- 急な対面からZoomへの開催方法の変更により、準備等に時間を要し、研修会の周知などを十分に行うことができず、参加者を十分に集めることが出来なかった。ことが
- 全く推進できなかった
- web研修に慣れていないため、講師、ファシリテーターの連携を密にとる必要がある。zoomで不具合が起きたときの対応できるスタッフが必要。
- 基礎研修会では画面越しなので参加者の反応が分かりづらい。また入念に準備をしないとグループワークの進行に支障が生じると思われる。
- 全体の講習会が少なく、新人へのアナウンスが不十分だった
- どの研修会でも参加者数が10名以下であった。また、オンライン研修に不慣れな会員も存在するため、事前接続会などを十分に実施していかなくてはならない。
- コロナ収束を待って対面研修を行うかWEB研修に切り替えるかの判断が遅れた為、当初計画していた研修回数が実施できなかった。運営するスタッフがZOOMに不慣れの為、練習が必要であった。受講者も同様に不慣れな為、研修会前に予行練習の日を設けて動作確認を行う必要があった。受講率をあげる為には、参加しづらい会員のサポートが必要。
- ズーム操作に長けたスタッフに協力要請が必要であった。事例報告者の緊張と不馴れな操作が相まって十分に事例情報が提供できていないなかでグループ討議が始まった場面があった。Webでのグループワークだとディスカッションのテンポが遅くなり時間もかかるし盛り上がり欠けるため対面グループワークのほうが、生活行為に焦点を当てたファシリテートがしやすいという意見もあった。

改善すべき点、反省すべき点（まとめ）

コメント数（45/47） 95.7%

①開催時期・回数について

- ①上半期から計画的に開催すること
- ②下半期の開催となって後半が慌ただしかった
- ③士会内でもブロック間の格差

②オンライン研修の開催方法・手順

- ①運営側の課題（ZOOM操作、知識、GW、音声、トラブル対応、技術の習熟）
- ②利用者側の課題（受講方法、接続環境、ZOOM操作、不慣れなど）
 - ・IT機器の取り扱いに不慣れな会員、オンライン環境がない会員
- ③個人情報保護に関する課題

③事例検討（実践者研修）が開催できなかった

- ①発表者がいなかった
- ②聴講者が少なかった、いなかった

④運営について

- ①グループワークのファシリテータのマンパワー不足
- ②ハイブリッド開催の環境設定

⑤周知方法について

- ・広報の在り方、告知の時期

アンケート結果 7 (2021年度に向けた戦略・目標)

- 1) 各支部への協力依頼：各支部に1名以上のMTDLP担当者を配置してもらい、MTDLP事例検討会 年間12回のスムーズな運営を図る。(平日夕方開催、各支部3回、事例は1~2事例、北陸3県合同3事例) Zoom併用による支部合同開催も検討
- 2) 教育部への協力依頼：MTDLP担当者を配置してもらう。基礎研修の運営、事例検討会のポイント発行管理
- 3) 協会のMTDLP拡大会議への参画：実施は未定であるが、開催するようであれば、県士会より1名の派遣またはZoomであれば、関連会員の参加
- 4) 委員会の開催：上記運用が適切に行われているかを年間2回の委員会を開催する。委員会は担当理事、委員長、事務局、会計を置く。
- 実践者研修での事例発表者が少ないため、会員にアンケート調査などを実施して、事例の書き方研修の開催方法や実践者研修での発表に向けてのフォローアップ方法を検討する。
- 研修会の広報を早めに行い、SNS等で発信する。オンラインの接続の不安を払拭する為に参加の接続テストを事前に行うようにする。MTDLPの活用事例を聞ける場を作り、身近に感じてもらう機会を増やすことを計画している。
- 広報の工夫(生涯教育部との連携)。協会目標の達成。
- 指導者の実践事例を基に書き方研修会などを開催予定。又、過去に取り組んだ事例をMTDLPのシートに落とし込む研修会を開催予定。
- 当士会はオンライン開催で行うことにしたので、広報(SNSの利用)や事前練習会など設け、当日のトラブルをなるべく解消できるように取り組んでいきたい。
- 難しいです。ネットワークを広げること。
- 現時点では研修会はWebで開催予定も、状況によってはハイブリッドや対面形式も検討する。
- 当県士会のwebでの研修会運営を参考に、web開催ができるように準備を進めていきたいと思います。
- 全てwebで実施。基礎は精神科事例を予定
- 宮崎県士会だけでなく、九州MTDLP推進委員会メンバーと協力しながら、推進していきます。
- ZOOMの概論・演習を、後から復習あるいは予習しやすいよう工夫するなど、オンラインであることの利点を逆に生かした運営を考えていく。
- 対面での研修は本年度も困難であると予想される。WEB研修で県外の講師を招聘し、多くの会員への普及啓発を検討しています。
- webでの研修体制の整備、士会内他委員との連携推進
- webで行うことで、子育て中の会員の受講機会につなげていきたい

アンケート結果 7 (2021年度に向けた戦略・目標)

- 介護保険の報酬改定についての情報交換を織り交ぜた実践者研修を企画中です
- 研修方法（web、対面など）の変更なども含め、書き方研修などを追加していく。
- Web研修を運営した経験は1度であり、基礎研修のみだったので、来年度は書き方講習、実践者研修をWebで開催できるように企画していきたいと思います。
- 初めての取組としてweb研修を行ったが、参加者を募れることが今年度取組でわかった。次年度はwebもしくはハイブリットでの研修会開催を行い、推進に努めたい。
- webでの研修をマニュアル化し、web研修の効率化を図る。地区毎の協力スタッフを増やし、各地区での研修実施を検討していく。
- 地域支援事業への参画のための人材育成を目的とするだけでなく、対象者の年齢・疾患・病期に関わらず、また、医療、介護、福祉等、すべての領域に従事する会員を対象として、対象者の地域生活支援におけるMTDLPの意義等を明示した研修会を実施する。
- zoomを使用した研修であっても研修会の質は担保できると感じた。依然としてコロナ対策が必要となると思うため、会員のみなさんがzoomに慣れて参加しやすくなると、更に参加者が増えるのではないかと思う。
- 地区ブロック毎に行ってきた事例検討会だが、WEBで行うので、毎回、全会員を対象とする事へ変更した。1年間に4回（1回に3名まで）計画し、運営を3～4ブロックで協力しながら行う。運営の手順については、統一できるよう、スケジュールと準備に関するマニュアルを作成した。また、令和3年度の計画を、2月末に会員へ広報した。
- 東京都ではブロックごとに開催しているので2020年度で得たオンライン研修の開催ノウハウを他ブロックに伝達することがポイントになると考えている
- 離島会員に対する広報案内
- オンラインサロン（実践者養成を目的）の年4回の実施を予定。精神科領域、介護領域を対象とした学習会を企画。
- 目標:基礎研修100名以上、実践者研修10名以上。ポイント:広報を昨年より早めに行う、実践者研修受講者を増やすため基礎研修で働きかける、他勉強会で研修を希望している職場や団体を募集して共同開催する、オンラインの特徴を取り入れ他県士会にも広報し相互乗り入れのような形で実施すると実施回数が増えよいか

アンケート結果 7 (2021年度に向けた戦略・目標)

- 開催形式に関係なく参加してもらえよう体制を構築していきたい。
2021年度の途中から事例登録がMTDLPのみとなるので、良好なMTDLPの事例登録数が増えると良いと思います。
- 事例報告登録サポートメールのやり取り
- 基礎研修会と事例検討会の間に位置する、MTDLP実践についての研修会をもっとわかりやすく周知する。運営から領域別に事例を出し、興味を持って参加できるよう工夫する。
- 今年度同様に会員へのアナウンスなどしていきたい。養成校でのMTDLPへの理解、考え方（教育に取り入れ方、今後の方針など）には、いまだ差があるように思われる。色々な場面で推進していく必要性を感じている。
- 2020年度事例検討会時にGoogleフォームを活用してアンケートを取りました。実際に発表したい会員、事例登録したい会員名がわかりましたので、年度始めから委員を担当につけ支援し続けたいと思います。
- 当面はZoomでの開催を検討しているが、感染者数などの状況次第では、ハイブリットでの開催を検討していく。
- 早い段階でWEB研修会の開催を企画する
- コロナ禍だからこそ現代のITを活用した研修に積極的に取り組んでノウハウを蓄積したい
 - ・web開催で遠方の方にも宣伝。
 - ・地域での活用、普及
 - ・指導者の育成として、遅いかもかもしれませんが、事例報告の書き方研修会を開催
- 研修会の広報の強化(HP掲載やLINEなど)や、参加しやすい時間帯での開催(平日夜開催)を通し、対面の研修では遠隔地で参加に及び腰であった会員の参加も促進する。
- 周知の際にもオンライン研修でも十分にディスカッションできるということ、新しい研修会のスタイルとしてオンライン研修を取り入れている団体が多く存在し、その練習にもなることなどメリットも打ち出しながら周知する。分野ごとのMTDLPに精通したOTを講師として招き、研修会と実践者研修と抱き合わせるなどの工夫が必要である。当士会の精神科作業療法対策委員会で精神科でのMTDLPを実践していきたいが、いまいち実践方法がわからないなどのご意見も聞かれるため、そのような方をターゲットに自己研鑽ができる場を提供していきたい。
- 研修の開催にあたり、企画・運営できるスタッフ数が少ない為スタッフ数を増やす。2020年度実施できなかった、実践者研修と事例登録にむけたサポートの研修を充実させる。ケアマネとの合同研修が定期的実施できる体制が整った為、ディスカッションや事例検討会を行っていく。それらの情報を、県士会のHPや広報誌に掲載して行けるよう他の部局と連携する。

2021年度に向けた戦略・目標（まとめ）

コメント数（40/47） 85.1%

① オンライン研修の運営

- ① 不慣れな参加者へのフォロー（事前の接続練習）
- ② オンラインのメリットを活かす（県外講師の招聘、子育て会員支援）
- ③ オンライン研修のマニュアルの作成

② 運営方法

- ① ハイブリッド開催の在り方検討
- ② 県単独だけでなく、広域（ブロック）での協働開催
- ③ 士会内の他部署と連携（コラボ開催）
- ④ 離島への対応
- ⑤ 士会内のブロック単位での開催、ブロックごとの運営スタッフの育成
- ⑥ アンケート（Googleフォームの活用）

③ 内容

- ① 精神科事例のフォロー
- ② MTDLPのみならず、介護保険などの情報交換を交えた研修
- ③ 書き方研修の開催、
- ④ オンラインサロン（精神科、介護領域）
- ⑤ メールでのフォロー（サポートメール）

④ 周知・広報